

第3回 久米島町振興計画審議会 (久米島町総合計画評価委員会)議事概要・議事録

日時：令和7年3月27日（木）14:00～16:00

場所：久米島町役場本庁舎 2階第3・4会議室

区分	氏名	所属	出席
会長	小島 肇	琉球大学 准教授	○
副会長	村吉 政太	久米島紬事業協同組合 参事	×
委員	半嶺 通男	久米島町特別顧問・久米島高校元校長	○
	津波 勝代	沖縄県立看護大学 島嶼保健看護アドバイザー	○
	岡村 盡	(一社)GOSEA 海洋深層水利用学会 事務局長理事	×
	山城 晶	久米島町教育委員会	○
	大城 将司	久米島町農業委員会	×
	藺田 眞理	久米島商工会 会長	×
	盛吉 敏夫	久米島町観光協会 副会長	○
	新城 悟	JAおきなわ久米島支店 支店長	○
	田端 裕二	久米島漁業協同組合 組合長	×
	宮里 一弘	沖縄振興開発金融公庫 課長	○
	與那 明子	久米島町女性会 会長	○
	吉本 景太	久米島町社会福祉協議会 事務局長	○
	幸地 伸也	久米島町総務課 課長	×
	吉永 みゆき	久米島町福祉課 課長	○
	宮里 みかよ	久米島町教育課 課長	○
事務局	古堅 宗治	久米島町企画財政課 課長	○
	長濱 光秀	久米島町企画財政課 班長	○
	山城 一斗	(株)国建 まち・しまデザイン部	○
	上机 竜介	(株)国建 まち・しまデザイン部	○
	宮里 公輔	(株)国建 まち・しまデザイン部	○

次第	配布資料
1. 開会 2. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> • 住民アンケート(テキストマイニング) • 中学生・高校生アンケート結果 • 各種ワークショップ開催報告 3. 審議 <ul style="list-style-type: none"> ① 将来フレーム ② 基本構想の検討 4. 閉会	次第 資料1:住民アンケート(テキストマイニング) 資料2:中学生・高校生アンケート 資料3:各種ワークショップ開催報告 資料4:将来フレーム 資料5:基本構想の検討 参考資料1:第2回審議会議事録 参考資料2:国勢調査産業分類

— 議事概要 —

No.	意見要旨	対応
将来フレームについて【資料4】		
将来シナリオ		
1	将来シナリオはシナリオ C が適切と考える。地域コミュニティ機能拡充などのワーキング意見は有意義である。	今後の施策検討に反映する。
2	ワーキング参加促進のためにも、情報はタイムリーに提供されるべき。	(事後回答) 情報共有の迅速性に配慮して運用を行う予定である。
3	将来フレームにおける「想定」→「目標」への表現変更に対して説明を求める声があった。	(事後回答) 意見を受け、検討する。
4	シナリオ C を審議会としての総論的な立場とすることに対し、全出席委員が異議なしを確認。	(シナリオ C を審議会の結論として記録)
観光振興・経済施策		
5	観光客数が減少傾向にある現状を踏まえ、2028 年に掲げる観光客数 15 万人という目標の実現可能性には懸念があり、修学旅行の誘致などを含む戦略的な施策の再検討が求められている。あわせて、離島留学生制度や住宅整備といった要素も取り入れた総合的なアプローチを講じるとともに、観光振興計画と総合計画との整合性を確保する必要がある。	今後の施策検討に反映する。
6	修学旅行、スポーツ合宿、団体観光などへの施策反映と予算見通しを示してほしい。	各課・関係団体が具体的取組を進める中で、総合計画ではその方針と目標を整理する。
地域人材活用		
7	【P8】 「65 歳以上の就労支援」について、町として現在何らかの支援を行っているのか。	現時点では特段の支援は行っていないが、今後、働きたい高齢者のための環境整備を進める方針であり、今後取り組むべき施策として記載している。
8	シルバー人材への明確な呼びかけがないため、早期に支援施策を講じる必要がある。	(事後回答) 今後の施策検討に反映する。
9	町内有志によるシルバー人材センター設立準備会が立ち上がっており、来年度の設立に向けた動きがある。	(関連情報として記録)
KPI(指標)		
10	KPI 設定とモニタリング体制が必要。実効性ある現実的な目標設定を行うべき。	審議会での検討を通じ、収集しやすく効果的な指標を選定予定である。

No.	意見要旨	対応
基本構想の検討について【資料5】		
将来像		
11	【P5】 将来像に使われている「つなぐ」の表現を高く評価。関係人口とのつながりが島の活力になる。	今後の施策検討に反映する。
12	将来像の表現については、「未来」「夢」「つなぐ」といった抽象的なキーワードに対して、具体的な意味づけを行う視点も有効ではないか。	
13	欠席委員からは、将来像の内容が盛り込みすぎであるとの指摘があり、あわせて、実効性や優先順位を踏まえた施策の選定が必要であるとの意見が示された。	(事後回答) 意見を受け、検討する。
将来島づくり空間構想		
14	【P9】 土地利用に関連し、公民館の在り方が示されているが、行政区の見直しも必要ではないか。地域運営において連携に課題がある。	現時点では行政区の見直しは検討の議題には含まれておらず、今後必要性が生じた場合には、基本構想ではなく基本計画の中で検討する方針である。
15	土地利用に関して、行政と民間企業の方針の不整合が懸念される。明確な土地利用方針が必要ではないか。	国土利用計画を基に方針を示している。町としての位置づけも同様である。
16	空間構想の導入は、個別計画を統合的に提示するうえで有効。審議会としての総論的な立場とすることに対し、全委員が異議なしを確認。	(空間構想の導入を審議会の結論として記録)
基本計画		
17	中心拠点の設定にあたり、久米島高校などを軸とした教育ゾーンの整備が合理的。特に「教育アイランド」より「子育てしやすい島」という打ち出し方が若年女性流出対策として有効ではないか。	今後の施策検討に反映する。
18	子育てしやすい環境づくりとして、遊び場整備やシルバー人材による見守り支援の導入など、島全体で子育てを支える仕組みが必要である。	
19	公民館管理に関して、過去の開放的な運用と現在の設備制約とのバランスが課題である。	
KPI(指標)		
20	【P6】 「統合の基本目標」における数値目標はどのように設定するのか。	数値目標は設定せず、KPIにより基本計画内で評価予定である。

—議事録—

1. 開会

- 開会のあいさつ(小島会長)

2. 報告事項

- 報告事項の内容について、審議内容に反映されているので、その際に意見いただきたい。(小島会長)

3. 審議事項

① 将来フレーム【資料4】

(事務局より資料説明)

津波委員	【P8】 「65歳以上の就労支援」に関する記載があるが、現在、町として何らかの支援を行っているのか。
事務局	現時点では、町として特段の支援は実施していないが、今後、65歳以上で仕事を続けたいと考える方が働きやすい環境を整備していく方針である。そのため、今後取り組むべき施策として記載している。
與那委員	町からシルバー人材に対する明確な呼びかけはこれまで見られないため、早期に支援施策を講じる必要がある。
吉永委員	今年度、町内の有志によりシルバー人材センター設立に向けた準備会が立ち上げられ、来年度の設立に向けた取り組みが進められている。
半嶺委員	将来シナリオについては、シナリオCが適切であると考え。資料3の「第1回職員ワーキング」において、職員から「地域コミュニティや娯楽の機会を提供する公民館的機能の拡充」といった意見が出されており、非常に有意義な提案であると感じる。ワーキングは価値が高く、久米島が発展していくための重要な題材が含まれていると考える。
小島会長	ワーキングへの参加を促進し、施策の質を高めるためにも、情報をタイムリーに提供いただくことが重要であると考え。今後の運用においては、情報共有の迅速性にも配慮いただきたい。
盛吉委員	観光振興に関する現状として、観光客数は2016年をピークに減少傾向が続いており、2023年は約9万人、2024年も8.9万人にとどまる見込みである。このような状況の中、2028年に観光客数15万人を目指す観光振興計画については、その実現可能性に対して懸念される。 一方で、修学旅行の誘致には一定の成果が見られており、今後はこれを踏まえた戦略的な施策の再検討が求められる。また、離島留学生制度の拡充や、民間企業による雇用創出と住宅整備を組み合わせ、より総合的なアプローチの必要である。 あわせて、人口定常化に向けた長期的な視野に立った構想の検討も課題であり、観光振興計画と総合計画との整合性を確保していくことが重要である。
事務局	産業別就業者数、GDPなど数値目標を設定し、次年度にこれらの指標を基に施策内容を検討する。

宮里一弦委員	<p>将来シナリオについては、シナリオ C を支持する。人口減少社会においては、ICT の活用や生産性の向上を通じた省力化が不可欠であり、その結果として住民一人ひとりの所得向上を図るという方向性に賛同する。</p> <p>あわせて、地域における暮らしの豊かさも重要な観点であり、地域行事や住民の地域参画といった「暮らしの質」に関する取り組みを推進する必要がある。</p> <p>また、資料 P7 に示された空間構想は、ゾーン・拠点・軸といった都市構造の将来的な姿を可視化しており、各種計画の統合的理解に資する点が評価できる。</p> <p>さらに、今後の計画の進捗を的確に把握するためには、適切な KPI(重要業績評価指標)の設定とモニタリング体制の構築が不可欠である。計画が目指す方向に沿って進行しているか、またその進捗が妥当であるかを検証する必要があり、そのためにも、達成が困難な目標ではなく、根拠を持ち、実効性のある KPI を設定すべきである。</p>
事務局 (コンサル)	<p>KPI は、効果的かつ収集しやすい指標を設定することが重要である。第 2 次総合計画では、指標が多すぎて評価が難しくなるという課題があった。今回は国勢調査や所得データなど、公表されている分かりやすい数値を活用し、施策ごとに効果的な指標を審議会などで検討しながら進めていきたい。</p>
盛吉委員	<p>観光業の振興に関しては、修学旅行、スポーツ合宿、団体観光などの個別分野へのアプローチを、今後の施策の中でどのように計画に反映させていくのかを示していただきたい。あわせて、それに伴う予算の見通しについても示してほしい。</p>
事務局	<p>具体的な取組内容については、今後、各課および関係団体が主体となって対応していくことを想定している。総合計画においては、全体的な方針の整理と数値目標の設定を行う方針である。</p>
事務局	<p>欠席委員からの意見として、将来フレームにおける「想定」から「目標」への用語変更について、説明を求める声があった。</p>
総委員	(発言なし)
小島会長	<p>人口の将来フレームに関して、シナリオ C を審議会としての総論的な位置づけとすることについて、審議会における結論としても支障がないことを確認したい。</p>
総委員	(全員異議なし)

② 基本構想の検討【資料5】

(事務局より資料説明)

吉本委員	<p>【P9】</p> <p>土地利用の方向性として公民館の在り方が記載されているが、行政区の見直しも検討しているのか。現状では、区長や民生委員が探せない、又は不足する地域が多くなっている事から、地域運営に課題が見られる。</p>
事務局	<p>現時点では、行政区の見直しについては策定の議題には上がっていない。今後、公民館や行政区の在り方について見直しが必要となった場合は、基本構想ではなく、基本計画の中で検討する内容となる。</p>
津波委員	<p>【P5】</p> <p>将来像にある「夢つむぐ島 未来につなぐ久米島らしさ」の中で、「つなぐ」という語が用いられている点を高く評価する。さまざまな課題がある中で、関係人口と町民がつながることが、島の活力につながると考える。(津波委員)</p>
小島会長	<p>「つなぐ」という言葉は、久米島町におけるさまざまな要素を結びつける概念であると認識している。このため、「つなぐ」をキーコンセプトとすることで、他の関連事業との関係性が整理しやすくなり、計画全体の見通しが立てやすくなると考える。</p>
與那委員	<p>公民館の管理においては、設備管理や責任所在に関する課題が見受けられる。かつての開放的な運用と、現在の設備充実に伴う制約との間で、適切なバランスを取る必要がある。</p>
事務局	<p>具体的な施策については、次年度に策定を予定している基本計画の中で位置づけていきたいと考えている。</p>
盛吉委員	<p>今後の計画立案の流れについて、共有いただきたい。</p>
事務局	<p>計画立案の流れについては、P4 の通りである。</p>
半嶺委員	<p>空間構想における中心拠点の設定については、久米島高校、博物館、病院、図書館といった主要施設の位置関係を踏まえ、当該エリアを教育ゾーンとして整備することが、安全性やアクセス性の面からも合理的であり、利点が大きいと考えられる。</p> <p>また、資料 P3 に記載のある「多彩な教育の実現」との整合性を図る観点からも、久米島町を「教育アイランド」や「子育てしやすい島」というメッセージを前面に打ち出す方が、地域の特色をよりの確に反映したアプローチである。特に、若年女性の流失対策として有効と考える。</p>
事務局	<p>ご意見は今後の施策検討に反映する。</p>
山城委員	<p>子育てしやすい環境づくりとして、こども園や地域における子どもの遊び場の整備、シルバー人材の活用による見守り支援の導入など、島全体で子育てを支える仕組みの必要がある。教育と地域社会が連携して子どもの成長を支える体制の構築は重要である。</p>
事務局 (コンサル)	<p>P3 では、「多彩な教育の実現」を含むリーディングプロジェクトとして、教育を中心に多様な分野が連携する取り組みを示している。学校教育に限らず、地域や自然、歴史からの学びを通じて久米島らしい教育を実現し、島づくりを推進する重要な要素と位置付けている。今後は、多分野との連携を踏まえた施策検討を進めていく。</p>

新城委員	第3次総合計画の策定にあたっては、第2次計画の評価・検証を踏まえて課題を整理し、次年度以降の施策立案に反映する必要がある。また、民間企業が保有する土地の利用に関して、観光施設やリゾート開発等の方針が行政と整合していない場合が懸念されることから、明確な土地利用方針の提示が求められる。
事務局 (コンサル)	第2次総合計画の評価と課題整理を踏まえ、現在、第3次総合計画の基本計画や施策の検討を進めている。土地利用については、国土利用計画に基づき、その位置づけを行っている。久米島町は都市計画区域外であるため強い規制はかけられないが、町としての土地利用方針は国土利用計画等で示している。
小島会長	将来像の表現である「未来につなぐ久米島らしさ」については、より適切な表現がないか検討することを提案する。
宮里一弦委員	「未来」「夢」「つなぐ」などの抽象的なキーワードについては、具体的な意味づけを行うという視点も有効ではないかと考える。
吉本委員	【P6】 「統合の基本目標」について、具体的な数値目標の設定をどのように行うのか。
事務局 (コンサル)	現時点では、「基本目標」について具体的な数値目標は設定せず、基本計画におけるKPIを通じて評価を行う方針である。
事務局	欠席委員からの意見紹介。基本構想について、職員の負担が大きい中で、新たな計画書類(空間構想やデジタル)を追加することには慎重であるべきとの意見があった。
総委員	(発言なし)
小島会長	空間構想を導入することは、個別計画を統合的に整理・提示するうえで有効であり、審議会における結論としても支障がないことを確認したい。
総委員	(全員異議なし)

4. 閉会

- 次回以降(第4～6回)の審議会に向け、引き続き各委員からの意見提出を、メール等で補足意見いただきたい。(事務局)
- 年度末をもって事務局職員の異動および退職に伴う体制変更が予定されているが、引き続き新体制のもとで継続的な審議が行われる予定である。(事務局)

以上

